

平成二十八年年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験 (問題・解答) 用紙
実施日時: 平成二十八年二月二十七日(土) 九時三〇分〜十一時三〇分 (二時間〇〇分)

科	学 科 名	受験生記入欄	(ア)	(イ)
国 語	楽 理 科	受験番号		
四 枚のうち 一枚目		番		

第一問 次の文章は、坪井秀人編『偏見というまなざし 近代日本の感性』(二〇〇一年、青弓社)(文中では「本書」と書かれている)の、編者による「まえがき」です。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

平成二十八年年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験 (問題・解答) 用紙
実施日時：平成二十八年二月二十七日(土) 九時三〇分～十一時三〇分 (二時間〇〇分)

科目 四 枚のうち 二 枚目	科目名 楽 理 科	受験生記入欄 受験 番号 番	(ア)	(イ)
----------------------------	--------------------	-------------------------	-----	-----

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

科 目	学 科 名	受験生記入欄 受験番号	(ア)	(イ)
国 語	楽 理 科	番		
四 枚のうち 三枚目				

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

坪井秀人『偏見というまなざし 近代日本の感性』より「まえがき」
 (青弓社、二〇〇一、九頁～十三頁)

問一 文中の(A)～(E)のカタカナを、文脈に合うように適切な漢字になおしなさい。

問二 文中の傍線(1)「彼の歌声そのものが一つの信仰表明として「信じること」を逆説的に訴えている」とはどういうことか、説明しなさい。

問三 文中の傍線(2)「高慢(自負)と偏見」という表現のように他者による批判を受け入れる構えを持たない」とはどういうことか、「高慢(自負)」と「独断」の違いに触れながら説明しなさい。

問四 文中の傍線(3)「公共的な表象の場を権威づけ(E)カコウしてきた近代の、あるいはそれ以前までのさまざまな偏見の歴史を覆い隠してしまうことになるだけだ」といえるのはなぜか、説明しなさい。

問五 文中の傍線(4)「後置的に意味づけられたことがらが所与のものであるかのように見なされる」とはどういうことか、「偏見」というもののあり方に触れながら説明しなさい。

問六 文中の太線部「こうした迷信の二面性は、本書がその表題に用いている「偏見」という概念を考える場合にも有効ではないだろうか」という編者の目論見に対して、あなたはどのように考えるか述べなさい。

科目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)	(イ)
国 語	楽 理 科	受験番号		
四枚のうち 四枚目		番		

第二問 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

森正人校註日本古典文学大系『今昔物語集 五』より卷第三十一の十九
 「愛宕寺鐘語」(岩波書店、一九九六、四八三頁～四八四頁)

問一 文中の「(A) 可令有」、「(B) 不令足」を訓読し、すべてひらがなで書き下しなさい。

問二 文中の傍線(ア)「十二時に鳴らさむ」、(イ)「構へをしたる」、(ウ)「只有る鐘にて有る」の意味を、わかりやすく説明しなさい。

問三 文中の傍線(一)「心もとなかりけるままに、云ふ甲斐無く掘り開けてけり」を、わかりやすく現代語に訳しなさい。

問四 文中の傍線(二)「然鳴らましかば、鐘の音の聞き及ばむ所には時をも儘たしかに知り、微妙わびたからまし。極いたく口惜しき事したる別当也」を、わかりやすく現代語に訳しなさい。

問五 最後の二行「然れば騒がしく」となむ語り伝へたとや」は、それまでの文章の内容を受けて、教訓を述べる形になっています。どのような教訓か、「不信」という語の意味を明らかにしながら説明しなさい。